

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

October
ISSUE



October, 2024
Volume 149

先人の生き方から学ぶ ～G3の宿泊学習から～

9月11日から13日まで、3年生は宿泊学習で奈良県の川上村に行きました。

子どもたちは匠の聚（たくみのむら）に住むアーティストに墨絵を習ったり、一眼レフで写真の撮りかたを教わったり、大変充実した時間を過ごしました。その中で、私も子どもたちと共に学んで感銘を受けたことを、本日は皆様に共有させていただければと存じます。

匠の聚は、その名の通り“村”になっており、芸術を生業とされている方々が村のアトリエで生活し、アートの楽しさを子どもたちや一般の方々に伝える活動を行っておられます。

残念ながら故人になられていますが、その中に美術館として残されているアトリエがあります。小西保文さんのアトリエです。小西さんの絵は、しばらく生活をされたアメリカの文化の影響が垣間見られるとともに、ポップな人物像が特徴的です。現代風の絵なのですが、どの絵もどことなく淋しさを感じさせる色調で、見る人に“ノスタルジア”を呼び起こします。小西さんの作品で、私が1番好きな絵は「窓辺の家族」です。私がおその絵に見入っていると、匠の聚のスタッフの方が説明をしてくださいました。「この絵は小西さんの絶筆なんですよ。体調を崩されており、私からも何度も病院に行くように伝えていたのですが、この絵を描かれた1週間後に亡くされました。彼が最後に描いたのは『家族』だったんです。彼は川上村で生まれ育ちましたが、子どものころにご両親を亡くし、親戚と生活するため村を出ます。神戸で学び、大学を卒業したのですが、結核にか

かり6年間療養生活を余儀なくされました。苦しい出来事がたくさんあり、生きるのがつらかったと思いますが、それでも生き抜かれました。家族を早くに無くされたので、家族への思いもあったのでしょね。」この話を聞き、小西さんの絵の特徴の背景がよく理解できました。癌で亡くなられたとお聞きしましたが、最後まで人生を全うされたお姿に、励まされる思いがいたしました。

3年生の子どもたちは、川上村出身の土倉庄三郎さんについても学習しました。土倉さんは同志社大学設立の際に、多額の寄付をしてくださった方です。この方は、林業で地元の川上村や吉野を発展させた人物なのですが、幼少期に丁稚奉公に行き、厳しい指導を受けたそうです。ご自身が学校に行けなかったことから、教育の大切さを身に沁みて感じられ、林業で得た収入の3分の1を国家の発展のために、3分の1を教育に、残りの3分の1で生計を立てる、とのポリシーを持って社会に貢献されました。今私たちの学校があるのはこの方のおかげなのですが、村のために、また社会のためにと、利他を実践された生き方から、私も学びたいと思いました。そして、先人から学んだことを是非アクションにしていきたいと思

皆様もよろしければご家族で匠の聚を訪れてみてください。

★匠の聚 HP : <https://www.pref.nara.jp/miryoku/ikasu-nara/meiji150/dokura/>

副校長 ロハス 亜紀



キリスト教教育

10月：誠実 October: Honesty/Integrity

聖書：「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。…」

テサロニケの信徒への手紙一 5章16-18節（聖書協会共同訳）

先週末、聖書科（本校では宗教科）関係の出張で神戸に行き、様々な宗教・宗派の礼拝堂を見学する機会がありました。その中でイスラム教のモスクを訪れた時のことです。礼拝堂の正面右に電光掲示板が掲げられていて、そこだけ伝統的な礼拝建築とは異なる雰囲気を出していたので「一体何だろう？」と置いていたら、モスクの代表の方から説明がありました。その掲示板は、その日の「祈りの時間」を示すものだったのです。正体は至って伝統的な内容でしたが、時間表示がデジタルになっているところに「今時」を感じました。

イスラム教では一日5回の祈りが義務付けられています。慣れていない我々はつい、「そんなに回数が多いと大変だろう。」と思いがちですが、代表の方曰く「祈りは魂の食事」なので、行うのが当たり前なのだそうです。考えてみれば、我々でも普通の食事ならば一日3食以外に何らかの形で1~2回の間食を摂っていることが多く、それを大変だとか面倒だとか思う人はいないでしょう。「今の日本は戦争も無いし、経済的にも豊かだが、魂の食事である祈りが少ない。自殺率が高いのは、そのせいだと思う。」というのが、その方の見解でした。ムスリムの国では、たとえ貧しくとも自殺率は極めて低いのだと…。

詳しく統計を調べたわけではありませんが、その説には一理あると思いました。キリスト教では「神の言葉」が食事に譬えられ（例：マタイによる福音書4章4節→申命記8章3節からの引用）、「祈り」は神との対話です。私は毎年、本校に入学したばかりの1年生に祈りについてお話する時、「自分のお父さんやお母さんにお話する時、何か買ってほしい時だけしか口を利かなかったとしたら、とても変なこと。そのように、お祈りは天のお父様にお話することだから、『何々してください。』『お願いします。』だけを言うのではなくて、嬉しいことや感謝すること、もちろん悲しいことや辛いことでも、何でもお話する習慣を身に付けてほしい。」と伝えるようにしています。

とは言え、祈りが体ごと習慣になっているイスラム教や、ロザリオの珠を一つ一つ確認しながら定型文で祈っていくカトリック教会に比べると、プロテスタント教会の祈りは自由祈禱だけに、逆に難しく感じる人が多いのかも知れません。

そのような祈りの初心者（！？）のために、プロテスタントのキリスト教ではお薦めしたい方法が二つあります。

その1「主の祈り（Lord's Prayer）」を暗唱して、丁寧に祈る。

「主の祈り」とは、当時自分で聖書を手に取って読むことも能わなかった一般民衆に対し、キリストが直々に教えてくださったという、言わば祈りの模範であり、エッセンスです（マタイによる福音書6章9-13節）。この祈りを本当に心から丁寧に祈るならば他の祈りは要らない、とまで言われるほどに、全てを網羅しています。

その2 祈りをテーマにした讃美歌を歌う。

日本語では「こどもさんびか」19番、英語ではDIAのオリジナル曲「Our Father」が「主の祈り」です。讃美歌のメロディーと共に、自然に祈りが口をついて出るようになります。

皆様もぜひ、お試しあれ！

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓



<お知らせ>

・10月8日（火）おにぎり献金

・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）
・海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「シリア緊急募金」・「ガザ人道危機緊急募金」

今年度は上記の施設にお捧げします。ご賛同いただける方は、お子様に献金をお持たせください。

2年生は、「選択は、健康や幸せに影響する」を Central Idea に探究をしています。Week 1 では国語辞典を使って Central Idea の言葉の意味を確かめ、何について探究するかを明確にしました。その後、Week 2 には「健康」や「幸せ」を感じる時がどんな時なのか子ども達に問いかけました。健康と感じるのはどんな時かを聞いた時には「体の調子が良い時」「元気な時」「けがをしていない時」と子ども達からは似たような意見が多く挙げられました。しかし、幸せだと感じるのはどんな時かと聞いた時には「勉強している時」「サッカーをしている時」「プレゼントをもらった時」など、子どもによって意見は様々でした。中には「先生が優しい時」という意見もあり、子どもとの関わり方を考えさせられる場面もありました。お互いの意見を聞く中で、「人によって幸せの感じ方が少しずつ違う」ということに気づくことができ、とても有意義な時間を過ごすことができたように感じます。そして、Week 3 の最後



には Summative Assessment の Rubric の説明を行いました。Unit 3 の Summative Assessment では自分の生活を振り返り、より健康で、より幸せな生活を送るためには今の生活をどのように変えたら良いかを考え、Action を行います。ただ、自分の生活を振り返り、改善するためには知識が必要です。その知識を得るために、Week 4 からは健康や幸せな生活を送るためにはどのようなことを意識したり、どのような行動をしたりしたら良いかについて探究を始めました。子ども達のノートをみると、食べ物には役割があり、体を作る食べ物、体を動かす食べ物、体を守る食べ物があることや食事は主食、主菜、副菜、汁に分けることができ、バランスの良い食事をとるためには一汁三菜を意識しなければならないこと、などをまとめていました。また、食事以外にも生活習慣がとても大切で、元気が出るサイクルと元気が出ないサイクルがあることや睡眠が成長ホルモンを分泌して体の成長を促していることなど、それぞれが興味を持ったことについて調べ、ノートにまとめました。調べた内容をふまえて Week 5 では実際に Action をします。

自分の健康や幸せは自分で追い求めていかなければなりません。それは大人になっても同じです。今回の Unit で分かったことが日々の生活を見直すきっかけとなり、Unit 3 だけでなく、これから先の自分の人生を見直すきっかけとなってくれればと思います。

自分の健康や幸せは自分で追い求めていかなければなりません。それは大人になっても同じです。今回の Unit で分かったことが日々の生活を見直すきっかけとなり、Unit 3 だけでなく、これから先の自分の人生を見直すきっかけとなってくれればと思います。





からのおしらせ

秋のおとずれ

ようやく秋を感じる瞬間が増えてきたように感じますね。食欲の秋、スポーツの秋、そしてもちろん、読書の秋。普段読まないようなジャンルの本に挑戦してみるのも良いかもしれませんね。

今月は、読書の秋のおともにおすすめの新刊をご紹介します。

『香菜とななつのひみつ』 福田隆浩/作 講談社



小学校5年の香菜は幼い頃から引っ込み思案で恥ずかしがり屋で、人前で話すことが苦手だった。心配をした母が「ことばの教室」に通わせてくれて、高学年になるころには教室で発表したり友だちに話しかけたりもできるようになっていた。

それでも聞き上手で慎重な性格は変わることはなく……。

引っ込み思案な香菜が”聞き上手”と”観察眼”を武器に学校のいろいろな秘密を見つけ出し、友だちと一緒に解決していく、ほんわりとあたたかい学校ミステリー。

『わたしのあのこ あのこのわたし』 岩瀬成子/著 PHP 研究所



小学5年生の秋は、友だちのモッチの家へ遊びに行った時、大切なレコードをモッチの弟に傷つけられてしまった。秋は、弟を止めなかったモッチが悪いと思うようになる。そして、モッチは自分の考えをはっきりと言えないところも、前から良くないと思っていた。秋は、モッチへのいじわるな気持ち広がっていくのを止めることができなかった。

ささいな出来事をきっかけに離れていくふたりが、再び心を通わせるまでを描いた物語。

『ネコはとつてもいそがしい』 吉野万理子/著 森田るり/絵 くもん出版



ターくんちのネコ・チャオは、昼間はいつも寝ています。ターくんとママは、「ネコはねるのがしごとだ。」なんていいますが、チャオはほんとうはとつてもとつてもいそがしいです。チャオの仕事は、人間がねむったころにはじまります。自由に動きたい電化製品たちと一緒に曲を演奏したり、近所のネコたちとネコビームを交わしたり、家族がぐっすりねむっているかチェックしたり……。

ハラハラドキドキの物語を通して、「空想することや物語を読むことの楽しさ」を伝える児童文学です。

10月の主な行事・予定

10/4~10/5	G1 宿泊学習	
10/19	スポーツデー	
10/29	避難訓練	
10/31	ハロウィン	
1	火	Buffer week 3年参観 / G3 Open classes
2	水	6年参観 / G6 Open classes 委員会活動 / Students Committee
3	木	1年参観 / G1 Open classes
4	金	4年参観 / G4 Open classes 1年校外学習・宿泊学習 / G1 Excursion & Overnight trip
5	土	1年宿泊学習 / G1 Overnight trip
6	日	
7	月	Unit4(week1) 2年参観 / G2 Open Classes
8	火	5年参観 / G5 Open Classes 5年宿泊学習説明会 / G5 Explanatory MTG of overnight trip
9	水	委員会活動 / Students Committee
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	スポーツの日 / Sports Day as a national holiday
15	火	Unit4(week2)
16	水	クラブ活動 / Club activity
17	木	スポーツデー準備 / Preparation for Sports Day
18	金	
19	土	スポーツデー / Sports Day
20	日	
21	月	代休 / Substitute holiday designated by DIA
22	火	Unit4(week3)
23	水	スポーツデー予備日 / Sports Day Reserve Day クラブ活動 / Club activity
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	Unit4 (week 4) G1,2,3 推薦進学説明会(zoom)
29	火	避難訓練 / Evacuation drill
30	水	PYP プラン(午前授業) / PYP Planning (AM lessons)
31	木	ハロウィン / Halloween

11月の主な行事・予定

11/2(土)	きずな祭 / Kizuna Festival
11/22(金)	点灯式 / Christmas Lighting Ceremony
11/25~28	学期報告会 / Term-end reporting meeting
11/29(金)	創立記念日 / Doshisha Foundation Day